

## 常滑焼の魅力再発見・伝統技法を記録



写真1



写真2



写真3



写真4

日本六古窯の一つ、常滑焼の伝統的制作技法の伝承と技法を活用した新製品開発を目的として、当センターでは、平成16年度から伝統技法を調査しました。その結果について収録した映像を編集し、映像資料「常滑焼伝統技法」の3部作を作成しました。(写真1)

平成16年度は「茶器編」として急須の成形から加飾まで、制作工程を詳細に記録しました。写真2は、ロクロ成形による茶器の制作状況です。その他、面取、指頭紋、練込、紐づくり、細字、彫り、のた絵、練込カット、飛びカンナ、藻焼、貝焼などの各伝統技法が、産地を代表する11名の協力により実演されました。

平成17年度は「大物・陶彫編」として常滑が得意とする大物作りの技法と陶彫を取り上げました。写真3は、ヨリコづくり技法を用いた陶器製風呂桶の制作状況です。この技法は、ロクロ成形が困難な大きな品物の作成の際に用いられます。直径6~7cmの粘土の紐を作り、成形体の回りを制作者が後ずさりするように移動しながら順次積み上げていきます。その他、型押成形、ロクロ、型挽成形、陶彫などの各伝統技法を収録しました。

平成18年度は「陶芸編」として7名と1機関の協力を得て陶芸の各種技法を調査・収録しました。写真4は、ロクロ成形による大皿の制作状況です。その他、削り、紐づくり、縁切り、凹まし、練り上げ、象嵌、押文様、刷毛目、粉引、ロウ抜き、染付、穴窯焼成などの伝統技法を収録しました。

収録した映像は各編約2時間に編集しDVDを制作しました。このDVDは、伝統技法を活用した新製品開発に資料として生かされる他、常滑焼紹介の視聴覚資料として常滑市商工観光課で一般貸し出しや、瀬戸・半田市などの図書館でも閲覧できるよう配布しました。



常滑窯業技術センター 応用技術室 水野 潤 (0569-35-5151)

研究テーマ：伝統技法を活用した新製品開発

担当分野：プロダクトデザイン